

## 著者の業績一覧

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-02 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 中原, 精一 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10291/19049">http://hdl.handle.net/10291/19049</a>

中原精一著『憲法の視点』

一九九七年二月一〇日（成文堂）発行

中原精一教授業績一覧

著者の業績一覧

昭和三七年（一九六二年）

七月三〇日（論文）「条約の国内執行について」明治大学法制研究所紀要第六号

昭和三八年（一九六三年）

二月二〇日（論文）「米国における州法と条約との関係—外国人財産問題を中心として」明治大学短期大学紀要第七号

九月三〇日（論文）「米国における条約と既存の法律との関係」明治大学法制研究所紀要第七号

昭和三九年（一九六四年）

三月一〇日（論文）「わが国における平和主義体制の確立とその崩壊」明治大学短期大学紀要第八号

四月〇五日（論文）「米国における条約と事後法との関係」明治大学社会科学研究所紀要第二集

一月一日（研究概要）「条約の違憲性」明治大学社会科学研究所年報第五号

一月一日（論文）「わが国地方自治の理念と役割」（上）都市問題（東京市政調査会）五五卷一一号

二月一日（論文）「わが国地方自治の理念と役割」（下）都市問題（東京市政調査会）五五卷一二号

昭和四〇年（一九六五年）

二月二〇日（論文）「条約の国内法的研究概説」明治大学大学院紀要第二集

三月一〇日（論文）「憲法改正の手續・限界論の発展と特質」明治大学短期大学紀要第九号

一月二〇日（研究概要）「刑事補償の研究」明治大学社会科学研究所年報第六号

二月二〇日（論文）「刑事手続きにおける人権」明治大学短期大学紀要第一〇号

二月二〇日（論文）「条約に関する司法抑制―比較法的考察」明治大学大学院紀要第三集  
 昭和四一年（一九六六年）

三月三十一日（論文）「条約と法律との関係」法律論叢三九卷四一六併号（野田孝明教授古希記念論文集）  
 五月一九日（新刊紹介）「和田英夫『学習憲法』」明治大学新聞四一年五月一九日号

昭和四二年（一九六七年）

二月二〇日（論文）「基本的人権の制限―判例にあらわれた公共の福祉」明治大学短期大学紀要第一一号

三月二五日（論文要旨）「『条約の国内法的研究』要旨」明治大学大学院紀要第四集

三月二五日（論文）「最高裁判所の憲法判例よりみた裁判による人権保障の限界」東京都私立短期大学協会委託研究報告書（昭和四一年度）

三月三〇日（論文）「国家補償に関する憲法的考察」明治大学社会科学研究所紀要第五集

五月 三日（著書）『判例日本国憲法』啓文社

二月一四日（論説）「破防法の問題点」明治大学新聞一一六三号

二月二四日（論文）「憲法における国際主義」明治大学大学院紀要第五集

昭和四三年（一九六八年）

三月二〇日（論文）「わが国陪審制度是非論の若干の考察」法律論叢四一卷四一六併号（小出廉二教授古希記念論文集）

三月二五日（論文）「国内法と国際法との関係についての若干の考察」明治大学短期大学紀要第一二号

三月三〇日（研究概要）「国家補償制度―とくに損害賠償について」明治大学社会科学研究所年報第八号

九月二六日（論文要旨）「私の学位論文」明治大学新聞

一〇月 一日（著書）『女性と憲法問題―日常生活のなかにさぐる』評論社

昭和四四年（一九六九年）

三月二〇日（論文）「女性の地位に関する憲法判例」明治大学短期大学紀要第一三三号

三月二五日（論文）「アメリカ連邦裁判所裁判官の人事」法律論叢四二卷四一六併号（安沢喜一郎教授古希記念論文集）

三月三〇日（論文）「美濃部・立岡博士論争の素描―国内法と国際法との関係論について」明治大学社研紀要第七号  
 三月三〇日（研究概要）「憲法における国家主権の防衛と国際主義との矛盾」明治大学社会科学研究所年報第九号

五月 四日（談話）「女性と憲法」上、島根新聞

五月 五日（談話）「女性と憲法」下、島根新聞

六月一〇日（共同執筆）「政治のなかの法」敬文堂（女子高等教育の問題点）

七月 一日（論説）「国際条約と憲法問題（1）」評論社「ばれるが」七、八月号

九月 一日（論説）「国際条約と憲法問題（2）」評論社「ばれるが」九月号

一〇月 一日（論説）「国際条約と憲法問題（3）」評論社「ばれるが」一〇月号

十一月 一日（論説）「国際条約と憲法問題（4）」評論社「ばれるが」十一月号

十二月二〇日（著書）『国際条約と憲法の課題』評論社

#### 昭和四五年（一九七〇年）

一月 一日（論説）「国際条約と憲法問題（5）」評論社「ばれるが」一月号

二月 一日（論説）「国際条約と憲法問題（6）」評論社「ばれるが」二月号

三月二二日（研究概要）「憲法第九条に関する資料的研究」明治大学社会科学研究所年報第一〇号

七月一〇日（著書）『現代人の憲法』評論社

八月二五日（書評）「安沢教授古希記念論文集紹介」和光経済（和光大学社会経済研究所）第四卷一号

一〇月三一日（論文）「憲法における国際主義とその効用」明治大学法制研究所紀要第一二二号

#### 昭和四六年（一九七一年）

一二月二〇日（研究概要）「アフリカ諸国の憲法」明治大学社会科学研究所年報第一二二号

#### 昭和四七年（一九七二年）

二月 一日（論文）「アメリカ憲法の刑事手続条項概観」明治大学社会科学研究所紀要第一〇集

三月一〇日（論文）「裁判の公正―憲法三七条に関する判例の検討」明治大学短期大学紀要第一六号

一月一日(新刊紹介)「吉田善明『現代憲法の問題状況』」学園だより(明治大学広報課 第一四号)  
 昭和四八年(一九七三年)

一月二〇日(研究概要)「アフリカ諸国憲法の人権規定」明治大学社会科学研究所年報第一三三号  
 三月二〇日(論文)「アフリカ諸国憲法の研究(一)」英連邦諸国憲法の発展」明治大学短期大学紀要第一七号  
 六月三〇日(判例演習)「明治憲法下の法令」林修三ほか編『統治の機構と作用』成文堂所収  
 七月三〇日(解説)「最高法規」中川善之助監修『現代法学辞典2』(別冊法学セミナー増刊)日本評論社所収  
 八月三十一日(判例演習)和田英夫編『判例憲法』(別冊法学セミナー基本判例シリーズ)日本評論社所収  
 九月二〇日(判例演習)「刑事補償」林修三ほか編『基本的人権』成文堂所収  
 昭和四九年(一九七四年)

一月二〇日(研究概要)「アフリカ社会の構造的な研究」明治大学社会科学研究所年報第一四号  
 四月一日(論説)「ナイロビ大学の法学教育」法学セミナー第二二二号  
 四月二〇日(共編)中原・西俣編『法学の基礎』成文堂  
 六月二九日(講演)「アフリカの憲法と政治」明治大学社会科学研究所・人文科学研究共催講演会・於明治大学大学院

講堂

七月二〇日(随想)「アフリカの旅—東アフリカ(二)」月刊アフリカ第一四卷第七号(一五七号)  
 八月一〇日(随想)「アフリカの旅—西アフリカ(二)」月刊アフリカ第一四卷第八号(一五八号)  
 一〇月一日(論文)「アフリカ英連邦諸国憲法の発展」法律時報第四六卷第一〇号  
 一〇月二三日(論文)「アフリカ諸国の憲法事情(一)」憲法発展のあしどり」時の法令第八七三三号  
 一一月三日(論文)「アフリカ諸国の憲法事情(二)」各国憲法の内容と性格」時の法令第八七四四号  
 一一月一〇日(随想)「アフリカの旅(三)」ナイロビからの私信」月刊アフリカ第一四卷第一一号  
 一一月一三日(論文)「アフリカ諸国の憲法事情(三)」アフリカ社会の特性と憲法」時の法令第八七五号

## 昭和五〇年（一九七五年）

- 一月二〇日（論文）「ケニアの国会」月刊アフリカ第一五卷第一号（二六三号）
- 二月一〇日（論文）「ケニアの大統領制」月刊アフリカ第一五卷第二号（二六四号）
- 三月二〇日（論文）「アフリカ諸国憲法の研究（二）——英植民地憲法について」明治大学短期大学紀要第一九号
- 三月二五日（論説）「刑法改正草案と憲法」法学への誘い（別冊法学会誌）第五号
- 四月一〇日（論文）「ケニアの司法制度」月刊アフリカ第一五卷第四号（二六六号）
- 四月三〇日（解説）「憲法」時事百科（一九七五年版）小学館
- 五月一日（論文）「南ア・ローデシアの憲法と人種差別」法律時報第四七卷第六号
- 五月二〇日（共同執筆）和田英夫編『ケーススタディ憲法1』法学書院
- 九月一〇日（論文）「ザンビア憲法と政治体制」月刊アフリカ第一五卷第九号（第一七一号）
- 十一月二〇日（共同執筆）和田英夫編『ケーススタディ憲法2』法学書院

## 昭和五一年（一九七六年）

三月一〇日（論文）「アフリカ諸国憲法の大統領制と一党制——アフリカ諸国憲法の憲法研究（三）」明治大学短期大学紀要

## 第二〇号

三月三〇日（論文）「英連邦アフリカ諸国の憲法と大統領制」アフリカ研究第一五号（日本アフリカ学会誌）

三月三〇日（解説）「憲法」時事百科（一九七六年版）小学館

七月（著書）『日本国憲法講義要綱』東京法科学院（タイプ印刷）

## 昭和五二年（一九七七年）

- 一月一〇日（論文）「ギニア・ビサウ、モザンビークの憲法概観」月刊アフリカ第一七卷第一号（第一八七号）
- 三月一〇日（論文）「議会制民主主義の危機と再生」こまば（電波研修所）第四二号
- 三月一五日（共同執筆）小林孝輔編『新選憲法演習問題』（テキスト）一粒社
- 三月三〇日（解説）「憲法」時事百科（一九七七年版）小学館

- 三月二日(論文)「仏語圏アフリカ諸国憲法の成立―アフリカ諸国憲法の研究(四)」明治大学短期大学紀要第二二号
- 五月一日(コラム)「短大五〇年史の作成に寄せて」明治大学広報第五七号
- 五月三日(論文)「アフリカ英連邦諸国憲法の特性―人権条項と大統領制」法律時報 昭和五二年五月臨時増刊号
- 六月二日(研究概要)「アフリカ社会の構造的な研究」明治大学社会科学研究所年報第一五、六併号
- 七月二日(著書)『憲法論点ノート(上)―原論・統治』(テキスト、タイプ印刷) 東京法科大学アカデミー
- 九月一日(著書)『憲法講義案』(テキスト、タイプ印刷) 東京法科大学
- 一〇月一日(研究概要)「アフリカ社会の構造的な研究」明治大学社会科学研究所年報第一七、一八併号
- 昭和五三年(一九七八年)
- 三月二〇日(論文)「英連邦アフリカ諸国憲法の人権条項(一)―アフリカ諸国憲法研究(五)」明治大学短期大学紀要第二三三号
- 三月三〇日(解説)「憲法」時事百科(一九七八年)小学館
- 五月二〇日(論文)「英連邦アフリカ諸国憲法の人権条項(二)―アフリカ諸国憲法研究(六)」明治大学短期大学紀要第二四四号
- 九月二〇日(解説)「憲法―進路ガイダンス―七九年度就職対策」法学セミナー増刊号
- 九月二五日(研究概要)「アフリカ・フランス圏諸国憲法の研究」明治大学社会科学研究所年報第一九号
- 昭和五四年(一九七九年)
- 一月八日(解説)「整理と体系化の作業―私の学位論文」学園だより第七六号
- 三月三〇日(解説)「憲法」時事百科(一九七九年版)小学館
- 三月三〇日(共同執筆)和田英夫編『憲法ゼミナル教材』有斐閣
- 五月二〇日(共同執筆)吉田・中村編『憲法―司法試験シリーズ』日本評論社
- 五月三日(学会報告)「ケニア憲法の構造的な変遷―独立憲法と一九六九年憲法の比較から」比較法学会・於北海道大学
- 六月二日(解説)「憲法―進路ガイダンス―八〇年度就職対策」法学セミナー増刊号



九月三〇日（論文）「ケニア憲法の構造的変遷―独立憲法と一九六九年憲法の比較から」比較法研究第四一号  
昭和五五年（一九八〇年）

一月二〇日（共著）『憲法二七講』創成社

二月 一日（新刊紹介）「和田英夫『大陸型違憲審査制』」明治大学広報第一〇七号

三月二八日（論文）「ケニア植民地憲法の Council について（一）―アフリカ諸国憲法の研究（七）」明治大学短期大学紀要、創立五〇周年記念論文集

三月三〇日（解説）「憲法」時事百科（一九八〇年版）小学館

四月 七日（論説）「アフリカ社会の特性と憲法」法学への誘い第一〇号

六月二五日（解説）「憲法―進路ガイダンス―八一年度就職対策」法学セミナー増刊号

一月二五日（コラム）「短大五〇年史を発刊」明治大学広報第一〇四号

一月二八日（論説）「金大中氏の無罪を信ずる―人権無視の悪政を絶て」明大組合ニュース速報第一〇七四号

一月二九日（論説）「明治大学百周年に想う」明大専教連会報第一〇四号

昭和五六年（一九八一年）

三月三〇日（論説）「衣を脱いだ改憲論議―安定政権下における両陣営の思わくを探る」時事百科（一九八一年版）小学館

一月二〇日（論文）「ケニア植民地憲法の Council について（二）―アフリカ諸国憲法の研究（八）」明治大学短期大学紀要第二八号

五月二五日（論説）「成果あがる研究活動―アフリカ研究会の動向」明治大学広報第一二九号

六月二五日（著書）『日本国憲法講義Ⅰ』成文堂

九月 一日（書評）「ローレンスW・ピア編、佐藤功監修『アジアの憲法制度―アメリカの影響に対するアジア的対応』」Law School 第三六号

一〇月 五日（論説）「短期大学の教育実践―二つの私見」明大専教連会報第二〇号

一〇月一五日(著書)『日本国憲法講義Ⅱ』成文堂

昭和五七年(一九八二年)

一月一日(解説)「短答式実践教室・憲法」受験新報五七年一月号

一月二〇日(解説)「司法試験短答式対策」法学セミナー増刊号

二月一日(解説)「短答式実践教室・憲法」受験新報五七年二月号

三月一日(解説)「短答式実践教室・憲法」受験新報五七年三月号

三月三〇日(解説)「憲法」時事百科(一九八二年版)小学館

三月三一日(判例研究)「高等裁判所がはじめて戸別訪問を禁止している公選法一三八条一項は憲法二二一条に違反する

と判決した事例」明治大学短期大学紀要第三二号

四月一日(解説)「短答式実践教室・憲法」受験新報五七年四月号

四月二日(解説)「最新重要判例の要点整理―憲法編」受験新報別冊

五月一日(解説)「短答式実践教室・憲法」受験新報五七年五月号

七月一日(解説)「短答式実践教室・憲法」受験新報五七年七月号

八月一日(解説)「短答式実践教室・憲法」受験新報五七年八月号

九月一日(解説)「短答式実践教室・憲法」受験新報五七年九月号

一〇月一日(解説)「短答式実践教室・憲法」受験新報五七年一〇月号

十一月一日(解説)「短答式実践教室・憲法」受験新報五七年十一月号

十二月一日(解説)「短答式実践教室・憲法」受験新報五七年十二月号

昭和五八年(一九八三年)

一月一日(解説)「短答式実践教室・憲法」受験新報五八年一月号

二月一日(解説)「短答式実践教室・憲法」受験新報五八年二月号

二月一〇日(解説)「憲法」新傾向問題の解き方・考え方」別冊受験新報

- 三月 一日 (解説) 「短答式実践教室・憲法」受験新報五八年三月号
- 三月二〇日 (論文) 「最近のアフリカ英連邦諸国憲法―四つの憲法制定」明治大学短期大学紀要第三二号
- 三月二〇日 (判例研究) 「最過疎区と最過密区間の衆議員定数の格差が一对二を超える場合は、選挙人の投票価値の平等を損ない、憲法が保障する平等選挙に違反するとした事例」明治大学短期大学紀要第三三号
- 三月三〇日 (解説) 「憲法」時事百科(一九八三年版) 小学館
- 四月 一日 (解説) 「短答式実践教室・憲法」受験新報五八年四月号
- 三月二〇日 (解説) 「司法試験短答式直前対策(一九八三)」法学セミナー増刊号
- 五月 一日 (解説) 「短答式実践教室・憲法」受験新報五八年五月号
- 七月 一日 (解説) 「短答式実践教室・憲法」受験新報五八年七月号
- 八月 一日 (解説) 「短答式実践教室・憲法」受験新報五八年八月号
- 九月 一日 (解説) 「短答式実践教室・憲法」受験新報五八年九月号
- 九月二五日 (共著) 「世界の議会(一〇)アフリカ」ぎょうせい
- 一〇月 一日 (解説) 「短答式実践教室・憲法」受験新報五八年一〇月号
- 十一月 一日 (解説) 「短答式実践教室・憲法」受験新報五八年十一月号
- 十一月 一日 (解説) 「憲法の新しい学び方・考え方」受験新報五八年十一月号
- 一二月 一日 (解説) 「短答式実践教室・憲法」受験新報五八年一二月号
- 昭和五九年(一九八四年)
- 一月 一日 (解説) 「短答式実践教室・憲法」受験新報五九年一月号
- 二月 一日 (解説) 「短答式実践教室・憲法」受験新報五九年二月号
- 三月 一日 (論説) 「研究体制の整備について」に対応する意見」明大専教連会報第二八号
- 三月 一日 (解説) 「短答式試験出題形式別新傾向問題への対処法(一)憲法」受験新報五九年三月号
- 三月二〇日 (論文) 「参院比例代表制選挙とその評価」明治大学短期大学紀要第三五号

- 三月三〇日（解説）「憲法」時事百科（一九八四年版）小学館
- 四月一日（解説）「短答式試験出題形式別新傾向問題への対処法（2）憲法」受験新報五九年四月号
- 一月（著書）「憲法基本書精読講座」第一、二分冊（非売品）東京法科学院
- 十一月三〇日（論説）「短期大学の役割と公費助成」明治大学国庫助成推進委員会報第一〇号
- 二月一八日（論説）「アフリカの憲政と政変」朝日新聞二月一八日夕刊
- 二月二五日（著書）「憲法―司法試験短答式演習」法学書院
- 昭和六〇年（一九八五年）
- 二月一日（論文）「ケニアの行政機構とその機能」法律時報第五七卷三号
- 二月二五日（解説）「既出問題の分析と合格対策『憲法』」別冊受験新報
- 三月三〇日（解説）「憲法」時事百科（一九八五年版）小学館
- 三月二〇日（論文）「ケニア地方制度―アフリカ諸国憲法の研究（九）」明治大学短期大学紀要第三七号
- 六月八日（講演）「積み残された民主主義―陪審制度と選挙の戸別訪問」明治大学社会科学研究所第六回インターナショナル・シンポジウム、於明治大学
- 八月一日（解説）「六〇年度司法試験短答式問題の背景を探る（二）憲法編」受験新報八月号
- 昭和六一年（一九八六年）
- 一月二五日（講演記録）「積み残された民主主義―陪審制度と選挙の戸別訪問」明治大学社会科学科研究第六回インターナショナル・シンポジウム（総合テーマ「民主主義と日本」）記録、同研究所刊
- 三月二〇日（論文）「ケニアの選挙法」明治大学短期大学紀要第三九号
- 三月三〇日（解説）「憲法」時事百科（一九八六年版）小学館
- 三月三一日（論文）「アフリカ英連邦諸国憲法の特徴と評価」アフリカ研究第二八号
- 四月一日（解説）「南アの差別立法」ブリタニカ国際年鑑（一九八六年版）
- 四月一五日（著書）『民主政治と国際主義』成文堂

- 六月一八日（講演）「アフリカの話」明大教養講座、於明大付属中野八王子校
- 七月一八日（論説）「臨定問題について」明大専教連会報第三五号
- 八月二六日（研究報告）「陪審制否定論の一論拠としての国民性・国民文化論の検討―陪審制理解の予備的認識として」  
「陪審裁判を考える会」における報告
- 一〇月 一日（論説）「変化をみきわめて―短大校長に就任して」明治大学広報第二二六号
- 十一月 一日（論説）「徳島市条例事件と漠然性ゆえに無効の理論」明大駿台祭法律問題研究部パンフ
- 十二月 一日（論説）「都市型大学と短大の位置づけ」明治大学広報第二〇三号
- 一二月一〇日（論説）「陪審制と国民性」陪審裁判第四号
- 昭和五二年（一九八七年）
- 一月二〇日（論文）「第三世界と憲法政治―アフリカの場合―序説」明治大学短期大学紀要第四〇号
- 三月 一日（解説）「昭和六二年度司法試験第二次試験（憲法）新考査委員のプロフィール」受験新報三月号
- 三月一五日（著書）『裁判の公正と女性の権利』成文堂
- 三月二六日（解説）「徳島市条例事件と漠然性ゆえに無効の理論」明法第五号
- 三月三一日（書評）「ハイワード『アフリカの選挙（Fred M. Hayward ed., Elections in Independent Africa, Westview Press, Boulder and London, 1987）』」明治大学短期大学紀要第四一号
- 四月二〇日（解説）「憲法」時事百科（一九八七年版）小学館
- 五月一五日（新刊紹介）「田中館照橋『行政裁判の理論』」明治大学広報第二三七号
- 五月一五日（共著）『アフリカの都市問題』勁草書房
- 七月 一日（解説）「昭和六二年度司法試験論文式問題を予想する」受験新報七月号
- 八月二四日（研究報告）「陪審制度と憲法論」陪審制度を考える会「夏期合宿報告、於ホテルマウント富士
- 一〇月 五日（コラム）「終戦直後になぜ脱走したか」『戦争（下巻）―血と涙で綴った証言』所収、朝日新聞社
- 一〇月二三日（研究発表）「アフリカの都市と都市法」アジア経済研究所アフリカ地域研究会報告

## 昭和六三年（一九八八年）

一月二〇日（共同執筆）「第三世界と社会福祉—アフリカの場合」岡野加穂留編著『福祉社会の未来構造論—未来福祉の

ための遺伝子組み換え試験』所収、人間の科学社

三月 一日（論説）「短大の変貌と本学の対応」明治大学広報第二五一号

三月 一日（論説）「短期大学と二一世紀への展望」明治大学国庫助成推進委員会報第一三三号

三月二六日（随想）「保守回帰と憲法」憲友第九号

三月二〇日（論文）「陪審制と憲法論（一）—第四五・四六帝国議会における憲法論争」明治大学短期大学紀要第四三三号

七月三〇日（論説）「陪審制と憲法論」陪審裁判第五号

一〇月 一日（解説）「在学生の人権と基準の設定」受験新報一〇月号

十一月 日（解説）「知る権利と国家機密」駿台祭パンフ

## 昭和六四年（一九八九年）

一月一〇日（随想）「アフリカ、東と西—娘と二人旅」月刊アフリカ第三二八号

一月二〇日（共同執筆）和田・清水編『基本問題セミナー—「憲法」—一粒社

## 平成一年（一九八九年）

二月 一日（論文）「陪審制度と憲法論の輪郭」法律時報第六一卷二号

三月 一日（論文）「環境権と都市法—八王子市の緑化条例を中心に」私学研修第一一三三号

三月二五日（論文）「明治憲法下の陪審制と憲法論」法律論叢六一巻四・五合併号

三月二五日（論文）「環境権と地方自治の役割—八王子市の緑化行政をモデルとして」明治大学社会科学研究所紀要第三

## ○集

三月三二日（論文）「南アフリカ連邦憲法（一九〇九年）の成立—南アフリカ憲法史の展開（二）」明治大学短期大学紀要

## 第四五号

五月 一日（論説）「社研所長に就任して—研究所専任教員制度等の論議を」明治大学広報第二七二号

- 六月 一日 (解説) 「司法試験論文式―私の予想する問題はこれ」受験新報七月号
- 七月二三日 (論説) 「陪審裁判と憲法論の展開」東京新聞七月一三日号夕刊、中日新聞七月二〇日号夕刊
- 八月 一日 (コラム) 「陪審裁判」潮八月号
- 八月 一日 (研究概要) 「環境権と地方自治の役割―八王子市の緑化行政をモデルとして」明治大学社会科学研究所年報 第二九号
- 八月二五日 (解説) 「法律の上手な学び方―条文・判例にも強くなろう」季刊経営と法律第七〇号
- 九月一九日 (論説) 「アフリカと憲法事情」東京新聞九月一九日号夕刊
- 一〇月 一日 (共著) 中原精一編『現代法の創造的展開』成文堂
- 平成二年(一九九〇年)
- 二月一〇日 (論説) 「研究する者のための研究所として―三〇年の歴史を回顧する」社研ニュース第一六号
- 二月一〇日 (論文) 「南部アフリカ諸国の憲法(一) ザンビア、ジンバブエ」月刊アフリカ第三〇巻二号
- 三月一〇日 (論文) 「南部アフリカ諸国の憲法(二) アンゴラ、モザンビーク、南アフリカ」月刊アフリカ第三〇巻三号
- 三月一七日 (論説) 「二一日に晴れて独立―アフリカ最後の植民地ナミビア」秋田さきがけ。同一の論説が、長崎新聞、徳島新聞、信濃毎日新聞、中国新聞、新潟日報、高知新聞、山形新聞、福井新聞、岩手日報、南日本新聞に掲載される
- 三月二六日 (随想) 「二一世紀と憲法の変化」憲友第一一号
- 三月三〇日 (論文) 「南アフリカ共和国憲法(一九六一年)の成立―南アフリカ憲法史の展開(二)の二」明治大学短期大学紀要第四七号
- 四月 二日 (論説) 「ナミビアの独立と新憲法―ペレストロイカのアフリカ効果」東京新聞四月二日号夕刊
- 四月一〇日 (論文) 「ナミビアの独立と新憲法」月刊アフリカ第三〇巻四号
- 四月二五日 (解説) 「判例を読む―判例の学び方」季刊経営と法律第七二号
- 六月一五日 (論説) 「大学環境とその点検について考える」明治大学広報第二九三号

- 七月 一日 (論文) 「アフリカの憲法事情とナミビアの新憲法」法律時報第六二卷八号
- 八月 一日 (研究概要) 「三多摩における緑化条例の運用とその効用」明治大学社会科学研究所年報第三〇号
- 一〇月一〇日 (論文) 「アフリカ五二カ国 多党制化の波と憲法事情」月刊アフリカ第三〇巻一〇号
- 一二月 一日 (新刊紹介) 「土屋哲『アフリカ抱擁』」明治大学広報第三〇二号
- 一二月二〇日 (論文) 「南アフリカ共和国憲法(一九六一年)の成立―南アフリカ憲法史の展開(二)の二」明治大学短期大学紀要第四八号

平成三年(一九九一年)

- 三月二〇日 (論説) 「電算化の話を聞く」L I S M II 第二号
- 三月二五日 (論文) 「南多摩三市の緑化条例と環境権―八王子市、日野市、多摩市について」明治大学社会科学研究所紀要第二九巻二号

三月二六日 (随想) 「日本国憲法と日本語文化」憲友第一二二号

三月三〇日 (論文) 「南ア一九六一年憲法の実践―南アフリカ憲法史の展開(三)」明治大学短期大学紀要第四九号

六月 一日 (論文) 「南アフリカ憲法とアパルトヘイト―その歴史の流れとこれからの行方」法学セミナー第三六巻六号

六月一〇日 (論文) 「アパルトヘイトの崩壊と南ア憲法のゆくえ」月刊アフリカ第三一巻六号

七月一五日 (論説) 「研究者の研究所」のために」明治大学広報第三二二三号

一〇月 四日 (研究報告) 「アフリカ憲法の研究について」比較憲法学会、於駒沢大学

一二月一六日 (研究報告) 「南アフリカの政治改革」現代議会研究会、於憲政記念館

一二月一五日 (論文) 「南アフリカ共和国憲法(一九八三年)体制の成立と実践」明治大学短期大学紀要第五〇号

一二月三二日 (論文) 「ナミビア憲法の紹介―抄録と解説」アフリカ研究第三九号

平成四年(一九九二年)

二月一〇日 (論文) 「南ア政府の憲法原則」月刊アフリカ第三二巻二号

三月 七日 (講演) 「南アフリカ憲法の特徴とこれからの展望」アムネスティ・インターナショナル・南部アフリカ調



整グループ主催「南アフリカの現状と新憲法」シンポジウム基調報告、於早稲田教会

三月二五日（随想）「激動する国際社会と憲法的課題」憲友第一三号

三月三〇日（論文）「南アフリカにおける議会主権と違憲審査権の相剋—アパルトヘイト史の一断面」明治大学短期大学紀要第五一号

四月 一日（論説）「新生南ア憲法、実現に近づく—白人投票で国民党政府を信任」東京新聞四月一日号夕刊、中日新聞四月一五日号夕刊

七月 一日（論文）「見え始めた新生南アフリカ憲法像—制憲手続きと憲法原則案」法学セミナー第三七卷七号

九月 一日（論説）「新生南アフリカ『政治改革』の近況と展望」国会画報第三四卷九号

一〇月 五日（論文）「アフリカ憲法研究の視座」比較憲法研究第四号

一〇月 六日（論説）「岐阜県の環境問題」朝日大学キャンパスニュース第一〇号

十一月 一日（随想）「アフリカ憲法研究余話」月刊官界第一八卷一一号

十一月 五日（共同執筆）藤本一美編著「世界の政治改革」東信堂

十二月 二五日（論文）「アフリカ法の概観—A・K・メンサ・ブラウン『現代アフリカ法入門』を中心に」朝日法学論集第九号

### 平成五年（一九九三年）

二月 二五日（論文）「フランス語圏西アフリカ憲法の研究—セネガルとコート・ジボワールを例に」明治大学短期大学紀要第五二号

三月 一五日（随想）「日本は『平和の商人』であれ」憲友第一四号

三月 二五日（論文）「アフリカ社会の法と政治」明治大学社会科学研究所紀要第三八集

七月 六日（論説）「アフリカの民主化と日本の対応—自衛隊モザンビーク派遣に寄せて」東京新聞七月六日夕刊、中日新聞 七月一四日夕刊

七月 一七日（講演）「第三世界の人権保障—アフリカ難民と日本の役割」朝日大学大学院公開講座、於朝日大学

一〇月二五日(論文)「コモンウェルスと南アフリカ共和国」朝日法学論集第一一〇号  
 平成六年(一九九四年)

二月一日(論説)「南アフリカに真の『協調』謳う新時代」国会画報第三六卷二二号

五月一九日(論説)「民族協調のカギ握る経済政策―南アフリカ総選挙の意義と今後の課題」東京新聞五月一九日号夕刊、中日新聞五月二〇日号夕刊、北海道新聞五月二四日夕刊

五月二二日(研究報告)「南アフリカの総選挙とアフリカ人大統領の誕生」現代議会研究会、於明治大学大学院

六月一日(論文)「アフリカにおける宗教と法律」朝日法学論集第一二二号

八月一日(論文)「南アフリカ憲法史の夜明け―人種協調社会の基本法の成立へ」法学セミナー第三九卷八号

九月二七日(随想)「政経ゼミ二〇年に思う」憲友第一五号

平成七年(一九九五年)

二月一日(論説)「新生南アフリカ『総選挙』後の状況―来年四月までの憲法制定へマンデラ体制二年目の試練」国会画報第三七卷二二号

三月一日(著書)「南アフリカ憲法略史―アパルトヘイトから人種協調の歴史へ」朝日大学法制研究所

三月二四日(論説)「憲法の変革―二一世紀を指して」法のいぶき第三号

四月一日(随想)「アフリカ憲法研究余話」月刊官界第二二卷四号

五月三日(論説)「憲法の原点を考える―地方分権と民主主義の小学校」朝日新聞五月三日号岐阜版

五月二八日(研究発表)「憲法からみたアフリカの民主化について」日本アフリカ学会、於日本福祉大学

六月一日(論説)「陪審裁判復活への障害―五つの視点から」陪審裁判第一一〇号

十一月一日(随想)「アフリカ憲法研究余話」月刊官界第二二卷一一号

平成八年(一九九六年)

二月一日(論説)「旧陪審法と被告の権利―憲法論と運用の落差」陪審裁判第一二〇号

二月二〇日(著書)「アフリカ憲法の研究」成文堂

- 三月一〇日（論文）「南アフリカの憲法草案のあらまし」月刊アフリカ第三六卷三号  
三月一〇日（論説）「明治憲法下の模擬陪審裁判―朝日新聞社主催の殺人被告事件の例」法のいぶき第六号  
五月一日（随想）「アフリカ憲法研究余話」月刊官界第二二卷五号  
五月一日（論説）「南ア『新憲法誕生』に再び世界の熱い視線」国会画報第三八卷五号  
五月三十一日（共同執筆）大谷正義先生古希記念論文集刊行会編「国家と自由の法理」啓文社（執筆論文）「南アフリカ共和国における人身保護制度―Ganyu事件の論点を中心に」  
九月一日（論文）「南アフリカの新憲法成立―アパルトヘイト体制の克服」法学セミナー第四一卷九号  
九月一〇日（論文）「南アフリカ憲法のあらまし」月刊アフリカ第三六卷九号  
九月三〇日（巻頭言）「アフリカ憲法の研究を志したい人へ」アフリカレポート第二三三号  
十一月二日（談話）「町長判断測る住民投票―町長襲撃事件を考える」朝日新聞十一月二日岐阜版  
十二月十五日（論文）「東アフリカにおける Habeas Corpus の事例について」朝日法学論集第一五号
- 平成九年（一九九七年）  
三月三十一日（論説）「模擬法廷とゼミの学習」法のいぶき第七号  
六月一日（論説）「混乱から再生へ―遠い大陸アフリカ政治の展望」国会画報第三九卷六号

平成九年（一九九七年）

一二月 一日（論文）

「国民性論の研究―陪審制の研究の補論として（一）」朝日法学論集一七号

平成一〇年（一九九八年）

一二月一〇日（著書）

『憲法の視点―憲法小論集』憲法論集第三卷、成文堂

六月 一日（論文）

「国民性論の研究―陪審制の研究の補論として（二）」朝日法学論集二〇号

九月三十一日（論説）

「『義理人情』と憲法」法のいぶき八号（朝日大学法学会）

平成一一年（一九九九年）

二月 一日（論説）

「紛争沈静化へ『連帯』気運熟すアフリカ諸国」国会画報第四一卷二号

三月 三日（論説）

「正しい陪審裁判復活のために」東京新聞（文化欄）三月三日

三月三十一日（論説）

「憲法学習の楽しみ方」法のいぶき九号（朝日大学法学会）

五月二十五日（論文）

「国民性論の研究―陪審制研究の補論として（三）」朝日法学論集二三号

七月 一日（論説）

「陪審裁判論議への提言―正しい陪審裁判の復活のために」法（論説）学セミナー五三五号（投稿）

七月二十二日（論説）

「国旗・国歌法に対する意見（反対意見）」岐阜新聞七月二二日号

八月二十六日（研究報告）

「陪審裁判の憲法論」陪審裁判を考える会

一二月 一日（論説）

「南アフリカムベキ政権に期待される政治・経済改革の展望」国会画報四一卷一二号

平成一二年（二〇〇〇年）

三月二〇日（共同執筆）

「アフリカにおける Habeas corpus の研究」大谷正義編

一

「『人身の自由』の法的保障」所収、明治大学社会科学研究所叢書 晃洋書房

五月 一日（論説）

「憲法論は“平和の話”から」関東えびの会だより二号

五月三十一日（論説）

「『生命の権利』について（一）」法のいぶき一一号

七月二〇日（著書）

『陪審制復活の条件―憲法と日本文化論の視点から』現代人文社

一二月 一日（論説）

「紛争沈静化と新たな火種―アフリカ政治の今―複数政党制による民主か気運もなお植民地支配の後遺症残す」国会画報四二巻一二号

平成一三年（二〇〇一年）

三月三十一日（論説）

「死刑について」法のいぶき一二号

平成一四年（二〇〇二年）

三月（紹介文）

「『一弁文庫』紹介」朝日大学図書館目録

五月三一日（随想）

「自然と自分史」小林一九会「回想そして今」所収と

八月一〇日（紹介文）

「『一弁文庫』紹介」第一東京弁護士会会報三五四号

一一月二五日（著書）

「余白の愉しみ―研究からの解き放し」第一巻 非売品

一一月二五日（論文）

「陪審制度論の崩壊―司法制度改革審議会の分析から」朝日法

学論集二二号

平成二〇年（二〇〇八年）

五月二一日（論説）

「裁判員制度」宮崎日々新聞

この新聞の外に福島新聞（五、二八）、埼玉新聞（五、五）

南日本新聞（五、一三）、長崎新聞（五、六）にも掲載

六月 五日（論説）

「裁判員を量刑判断への参加から外せ」法と民主主義四二九号